

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 10 月 8 日 10:55 AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～40,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 39,600～42,500 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 16,900～18,700

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～103.546

(おことわり) 本レポート次回号は 10 月 18 日(金)の公開予定です。予めご了承ください。

エリオット波動とは

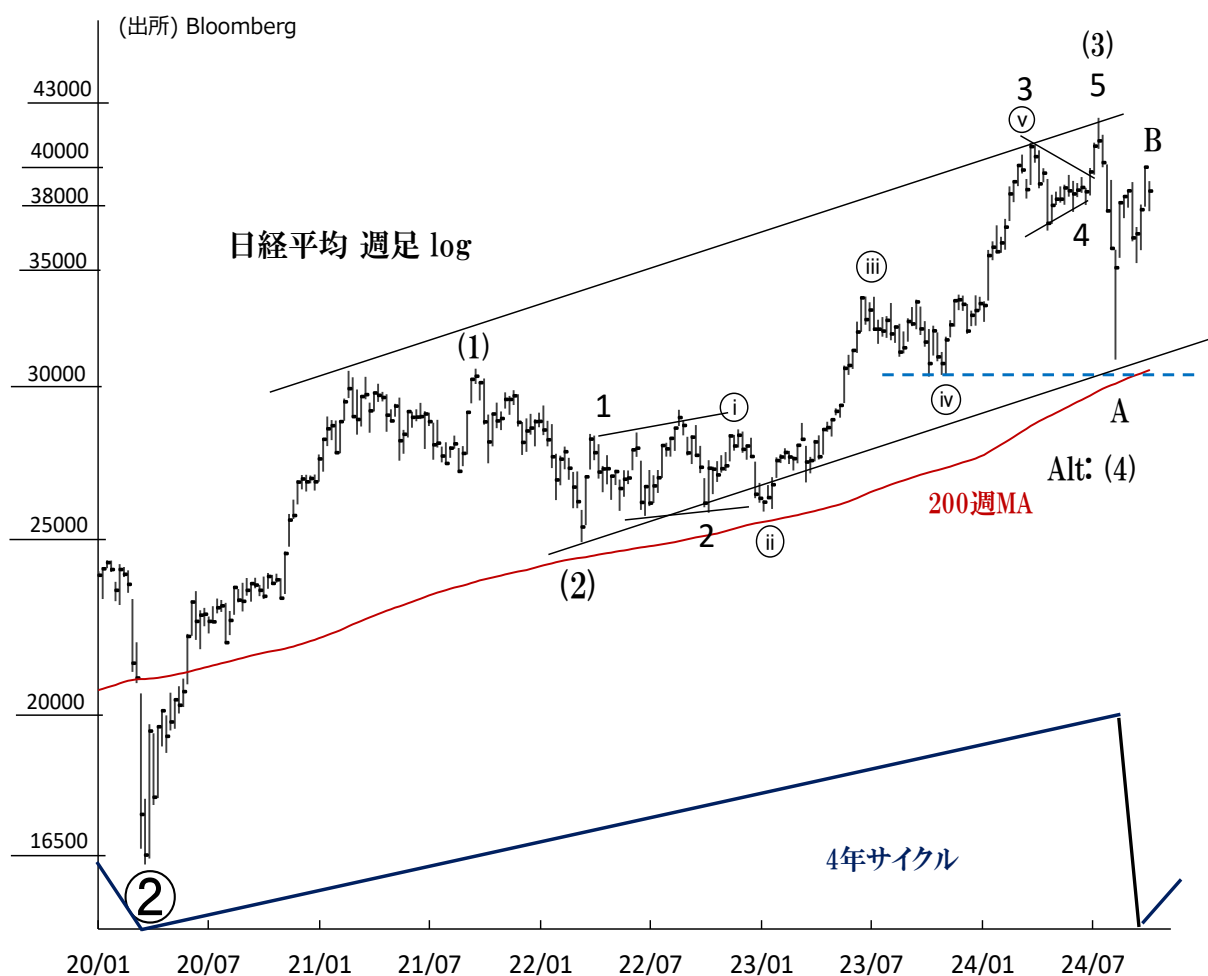
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます。それは 20 年 3 月以来の 4 年サイクル底に相当します。

中長期タームでの強気見通しは変わりません。来年の日経平均は、第(5)波の上昇によって 42,426 円を上抜き最高値を更新する可能性が高い、とみています。日経平均予想 EPS が初めて一時 2500 円台に増えるなど、好調な企業業績は続いており、4 万 5000 円も十分射程内にあります。

ところで第(5)波上昇はいつまで続くでしょうか？

今月のマンスリー(10/3 発行)で書いたように、それは最短で 2025 年 2 月、最長 2026 年 12 月までであり、特に 2025 年末頃までを、第(5)波による上昇期間として注目しています。



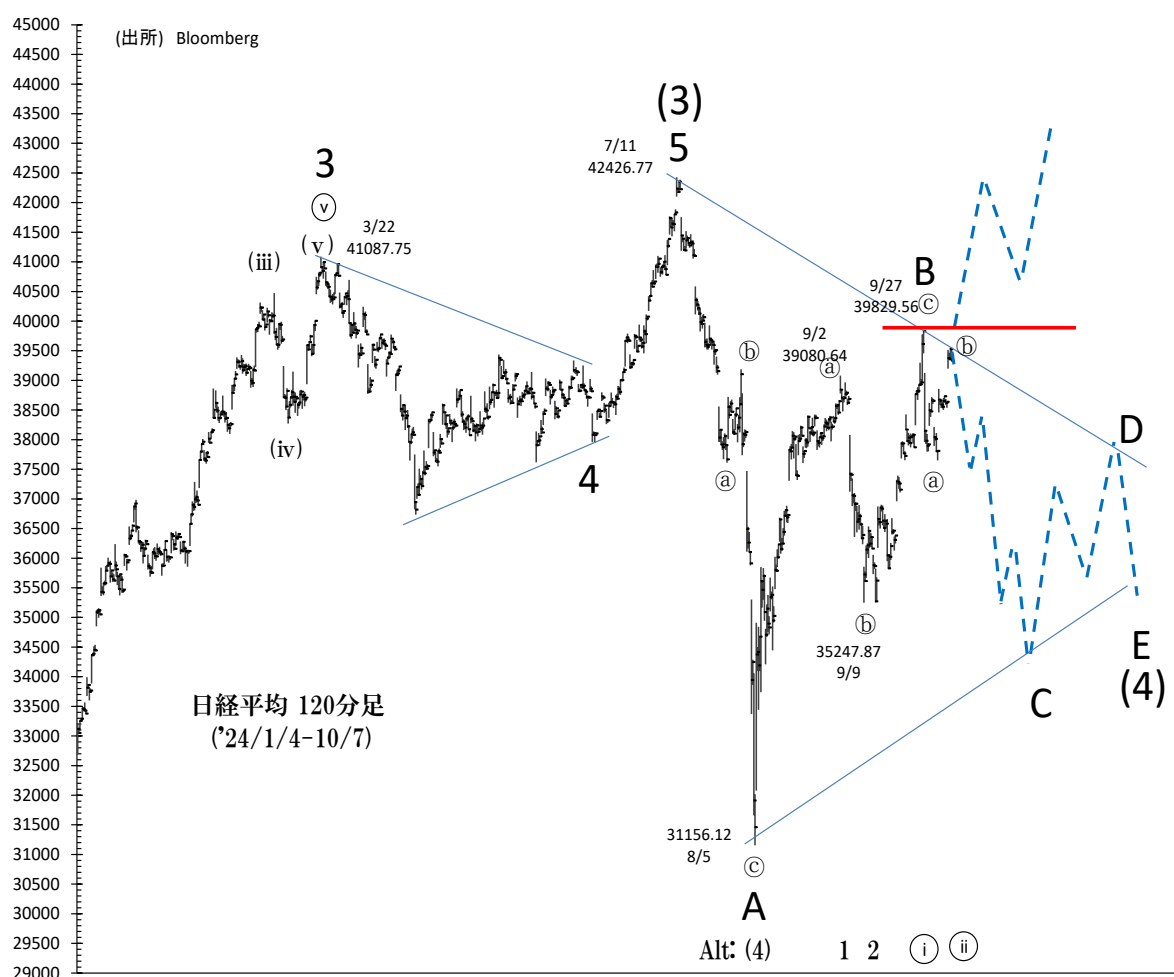
【日足 エリオット波動分析】

9月27日に日経平均予想EPSは初めて2500円台(2505.00円)に乗せました。EPS2500円、PER18倍とみれば4万5000円という水準が得られますが、それは25年の日経平均ターゲット候補として要注目です。

31,156円(8/5安値)以来のB波による戻りは、39,829円(9/27高値)を以て終わったとみられます。この高値は、A波下げのほぼ76.4%戻りの水準[39,767円]でした。

以来、C波の下落局面に入ったとみられます。このC波により日経平均は、10月～11月に35,247円(9/9安値)を下回るとみられますが、それは8月の「一番底」に次ぐ「二番底」となるでしょう。

一方39,829円を上抜くと、別の見方が必要になります(これについては時間足分析をご覧ください)。



【時間足 エリオット波動分析】

短期的な日経平均の見方には、以下の「メインシナリオ」と「サブシナリオ」があります。

[メインシナリオ] 35,247 円を下回り、「二番底」を形成

7 月高値以来の第(4)波は[トライアングル(A-B-C-D-E)]を形成中です。

31,156 円(8/5 安値)からの B 波((a)-(b)-(c))によるリバウンドは 39,829 円(9/27 高値)で終わり、そこから C 波((a)-(b)-(c))による下げが進行中です。C 波は 35,247 円を下回り、10 月～11 月に「二番底」を付けるとみられます。

[サブシナリオ] 第(5)波入り～年内にも高値更新へ

31,156 円(8/5 安値)以来、第(5)波による強気相場が進行中です。現在はサブシナリオですが、39,829 円を上抜くとメインシナリオに切り替わります。

この見方によれば、35,247 円(9/9 安値)以来の上昇は第(5)波-第 3 波に相当し、それによって年内にも 42,426 円を上回り高値更新の可能性があります。

NYダウ



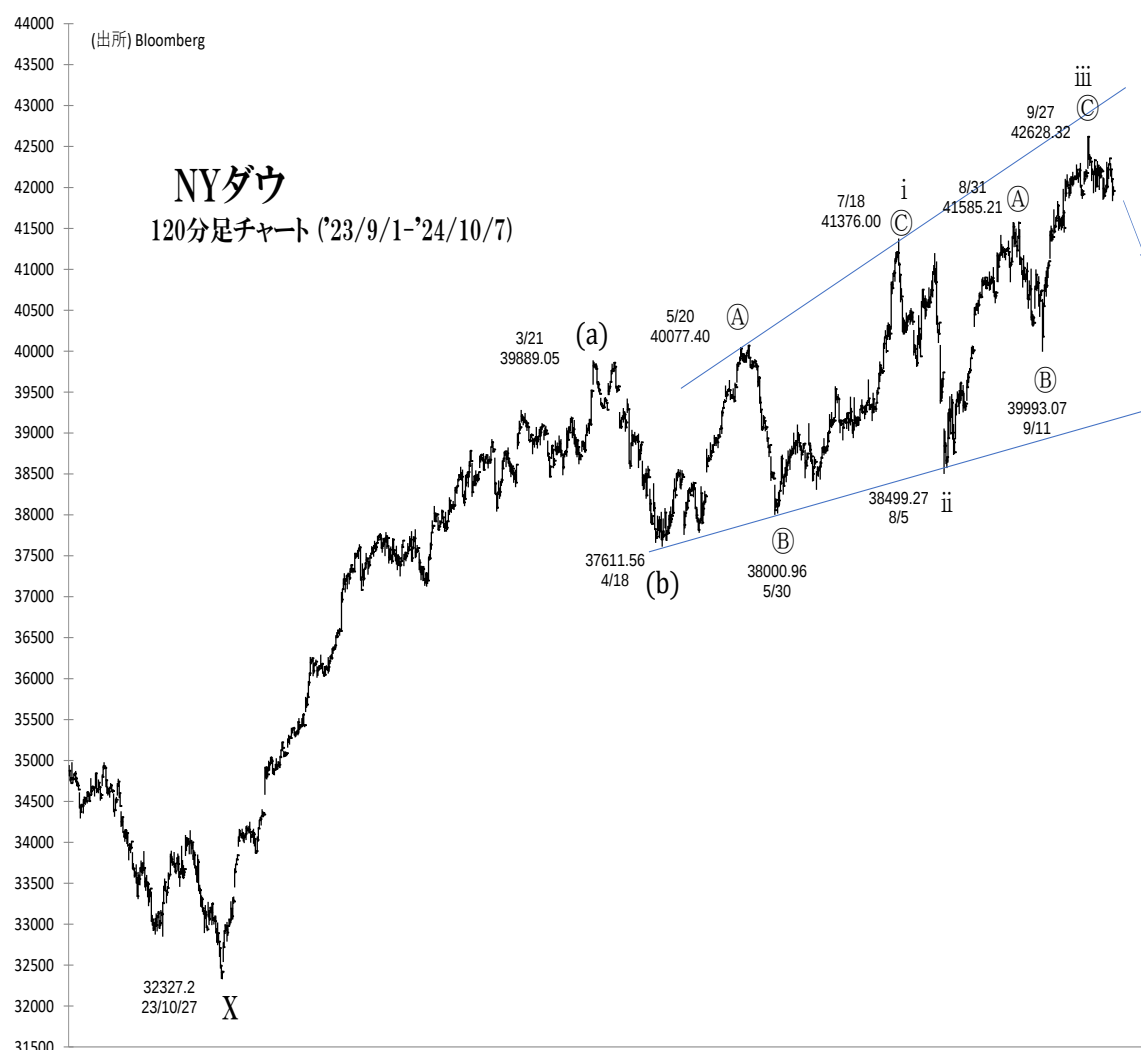
【日足 エリオット波動分析】

22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇は(B)波とカウントされ、(B)波のパターンは[ダブル・ジグザグ (W-X-Y)]を想定しています。

Y 波の編成は [ジグザグ(a)-(b)-(c)]になります。

さらに 37,611ドル(4/18 安値)からの上昇は Y 波中(c)波であり、この(c)波を筆者は、上昇局面の最後に現れる[(エクспанディング)ダイアゴナル]とみています。

42,628ドル(9/27 高値)を以て、(c)波中第 iii 波の高値を付けたかもしれません。第 iv 波による下落が始まっているのなら、それは 39,993ドルを下抜くでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

23 年 10 月安値・32,327ドルからの Y 波は、(a)–(b)–(c)[ジグザグ]編成となります。37,611ドル(4/18 安値)以来、(c)波による上昇とみられます。

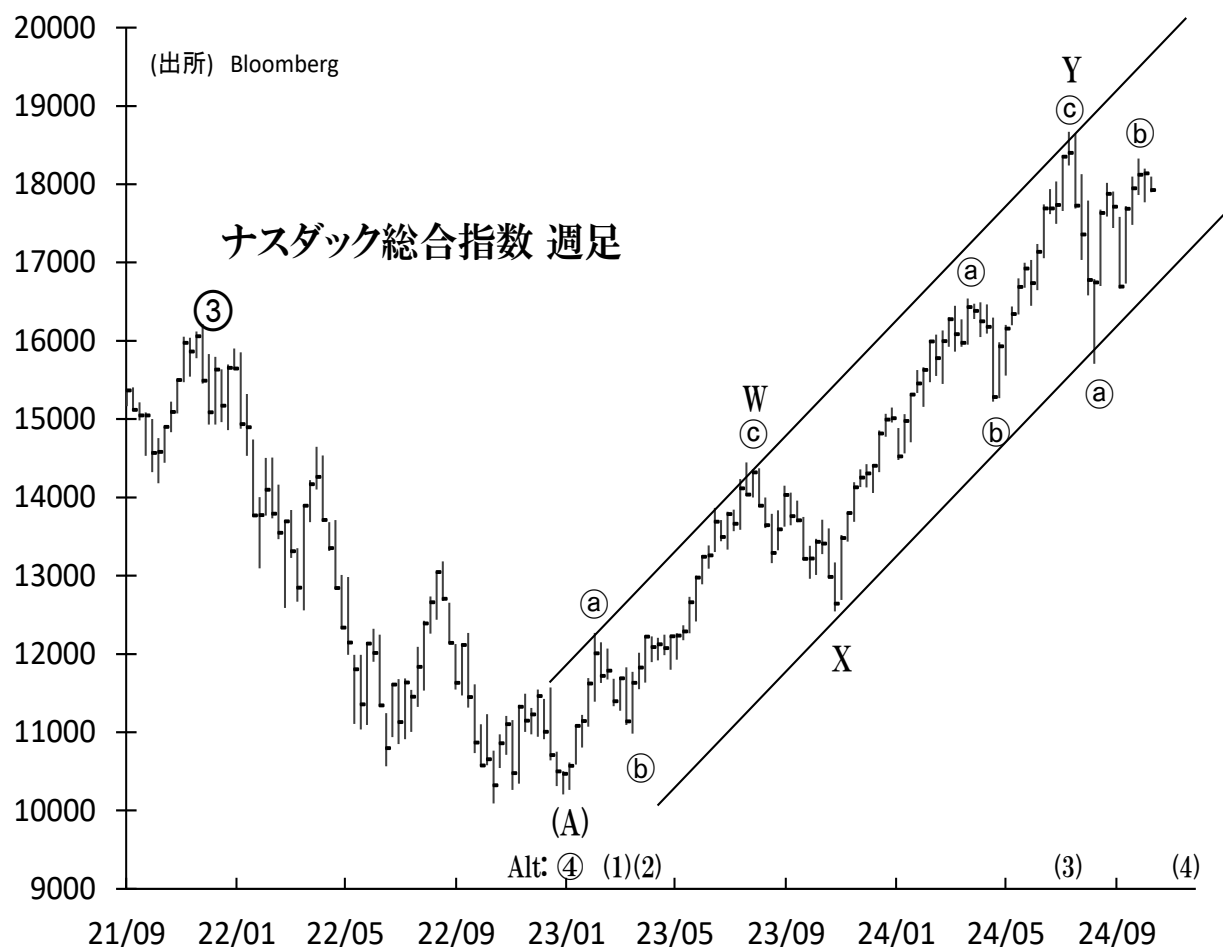
23 年 10 月～24 年 3 月までの上昇(a)波は、一貫して上昇するシンプルな形状ですが、(c)波は波の重複が目立つチョッピー(choppy)な形状です。これは(c)波が[(エクспанディング)ダイアゴナル]を形成中であることを示唆しています。

[エクспанディング・ダイアゴナル]は第 i 波～第 v 波から成り立ち、これら副次波の各々は三波構成((A)–(B)–(C))です。

38,499ドル(8/5 安値)からは、(c)波中第 iii 波の上昇であり、それは[ジグザグ((A)–(B)–(C))]編成です。39,993ドル(9/11 安値)からの上昇(第 iii 波中の©波)は、42,628ドル(9/27 高値)を以て終わった可能性があります。

そうであれば NY ダウは、10 月中にも 39,993ドルを下回る可能性があります。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

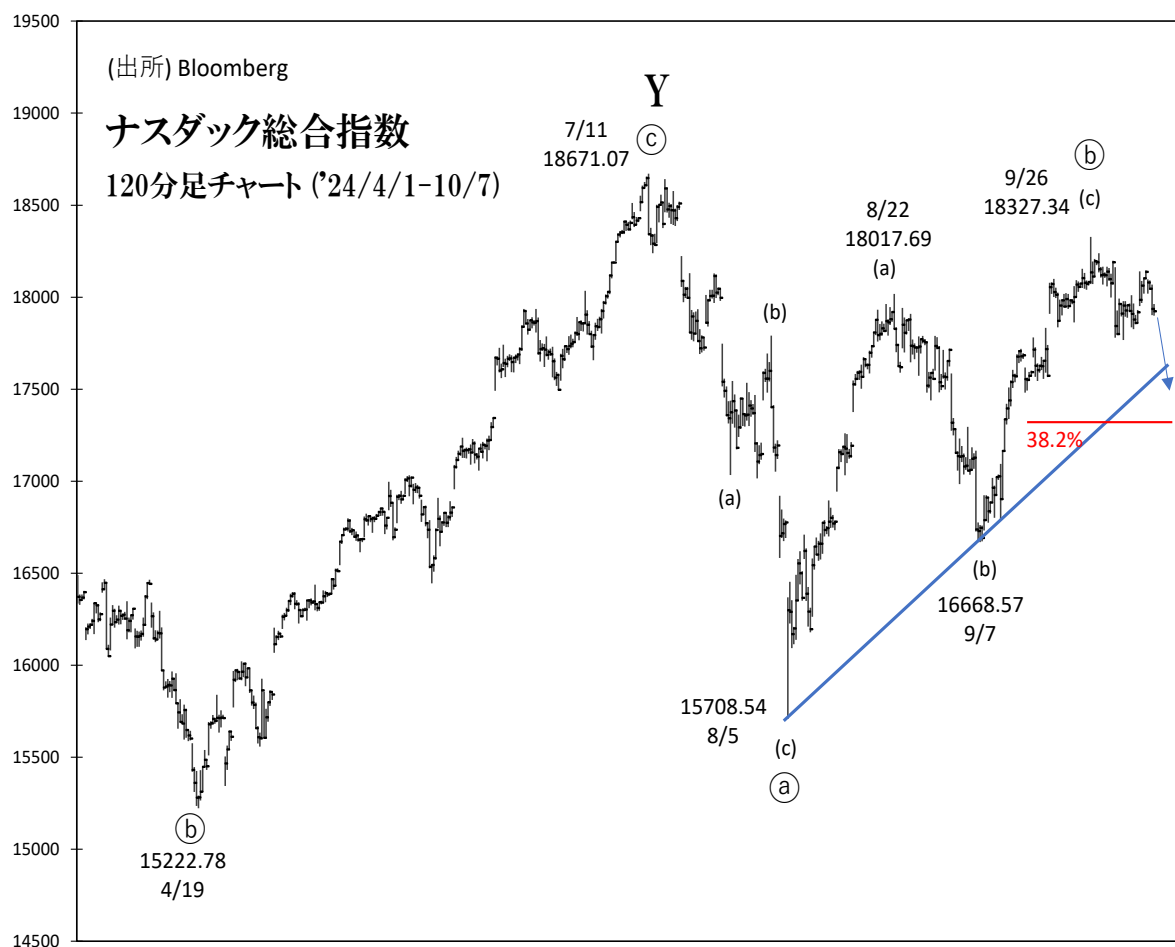
22 年 12 月安値(10,207)以来、(B)波による上昇が進行中です。この(B)波は[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]を形成し、25 年まで続くでしょう。

18,671(7/11 高値)より、X 波による調整が進行中とみられます。X 波は[トライアングル]か、[フラット]を形成中でしょう。足元、X 波-⑥波によるリバウンドが終了し、⑦波の下落に移ったところのようです。

⑦波の下落によっても、23 年 10 月安値(12,543)と 24 年 8 月安値(15,708)を通る、上昇サポートライン※を維持する限り、Z 波による上昇が 25 年に向けてみられるでしょう。

※10 月第 3 週(10/14~10/18)のサポートライン水準…[16,485]

その反面、サポートラインを終値で明確に下抜くと、18,671(7/11 高値)から既に(C)波による下落トレンドに入っている、という見方が台頭し、ナスダックは中期的に[12,547]を目指す可能性があります。



【時間足 エリオット波動分析】

7 月高値からの X 波は[フラット]か、あるいは[トライアングル](a-b-c-d-e)を形成中と思われます。

15,708(8/5 安値)からは、三波構成による⑥波のリバウンドに位置付けられます。⑥波は 18,327(9/26 高値)で終わったかもしれません。18,327 から⑦波による下落が始まった可能性があります。

短期的には、8 月安値と 9 月安値を通るサポートライン(10 月 8 日は 17,630 処)の維持なるか、が注目されます。それを割り込むと、次は 17,326(8 月からの上昇の 38.2%押し)が試されるでしょう。

なお⑦波によりナスダックは、早ければ今月中にも 16,668(9/7 安値)を下抜く可能性があります。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

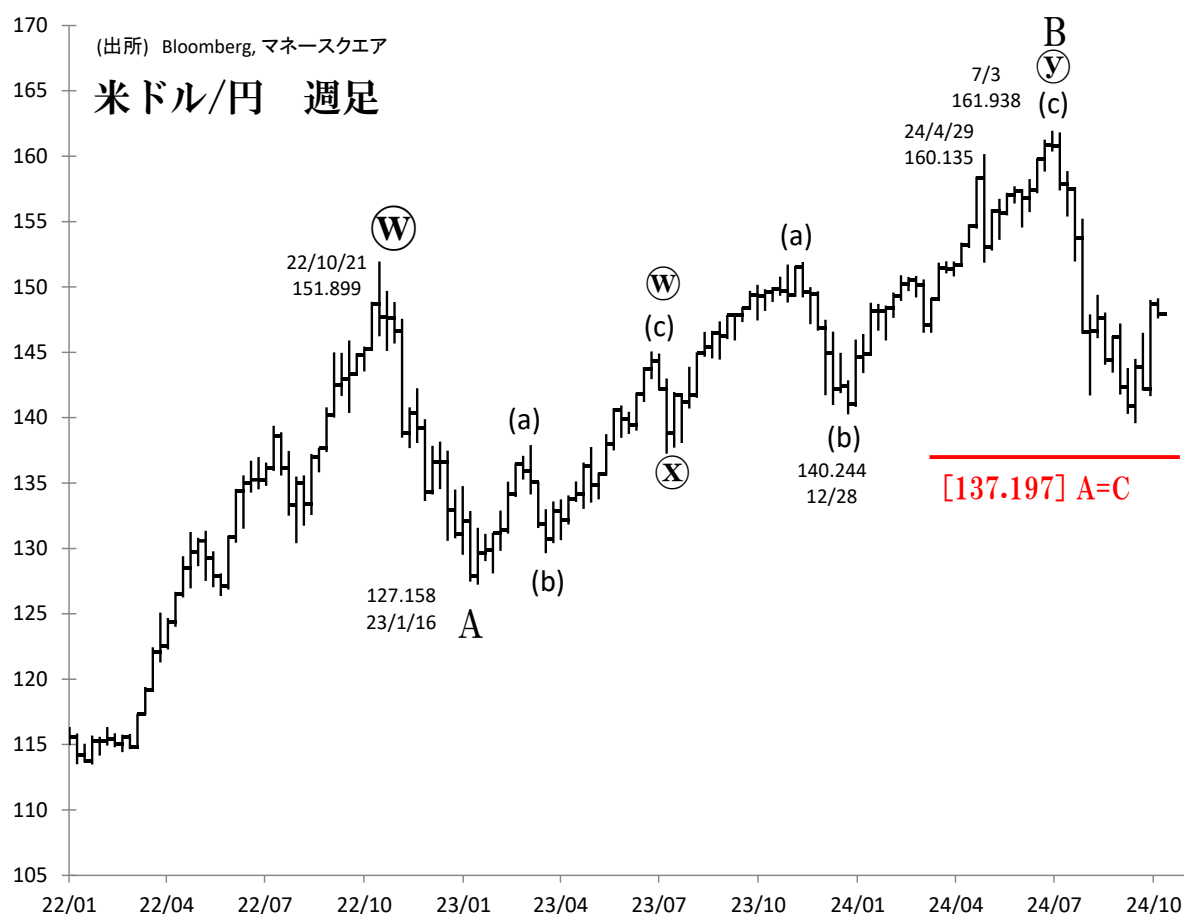
2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安ⓧ波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこからはⓧ波の「円高局面(トレンドではない)」が進行中です。このⓧ波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成していくでしょう。

161.938円(7/3)は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。それはⓧ波中 B 波高値(イレギュラートップ/不規則天井)に位置付けられ、この波動カウントによれば、いまはⓧ波中 C 波によるドル安・円高が進行中です。

22年10月以来のⓧ波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。10月を通じ①の水準は134.885円です。

一方②の場合には、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指し、より大きなドル安・円高になることが見込まれます。10月中、②の水準は115.260円となっています。



【週足 エリオット波動分析】

22 年 10 月 (151.899 円)からの A(↘)-B(↗)-C(↘)編成において、23 年 1 月 (127.158 円)からの B 波は 161.938 円(7/3)を以て完成しました。B 波終点の高値は A 波の始点高値を上回り、不規則天井(イレギュラー・トップ)を形成しました。

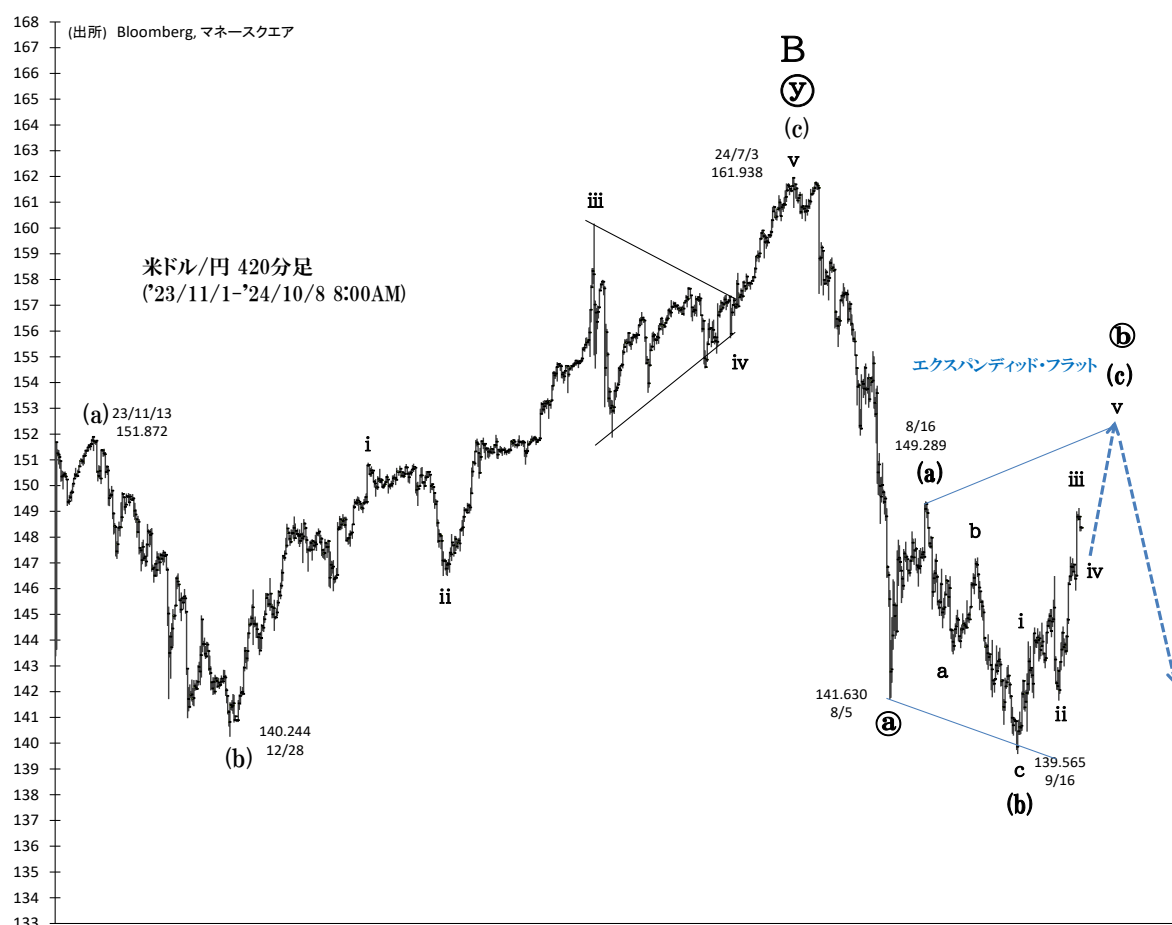
161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。

C 波の長さについては、A 波が有効な「ものさし」になります。

A 波の長さは 24.741 円(およそ 25 円)でしたから、C 波の長さも同様と考えると、**137 円辺り(厳密には 137.197 円)が C 波のターゲット**です。

なお 137 円を下抜くケースでは、先述した[134.635 円]のほか、[131.358 円]に注目です。

[131.358 円]…A 波の長さ(24.741 円) × 1.236 = C 波の長さ(30.579 円)



【時間足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)以来の C 波は[ジグザグ](a)-(b)-(c)とみられ、141.630 円(8/5)まではa波とカウントされます。そこからはb波によるリバウンドが進行中ですが、その構造はやや複雑です。

b波のパターンとして、もっとも有力と思えるものは「エキスパンディッド・フラット」(a)-(b)-(c)です。この見方通りなら、ドル/円は 139.565 円(9/16)からの上昇(b)-(c)波によって 149.289 円をいったん上抜き、151-152 円を打診するでしょう。なお 152 円付近には 26 週 MA が存在します。

[150.751 円]…161.938 円(7/3)→139.565 円(9/16)の半値戻り

[151.784 円]…a波によるドル安・円高の半値戻り

[151.957 円]…c波の長さがa波の 1.618 倍になる水準

このような円安はおそらく、「石破ショック」による一層の円高期待が肩透かしとなり、円を買い持ちしていた投機筋が損失覚悟の円売りを迫られる中で起きるでしょう。

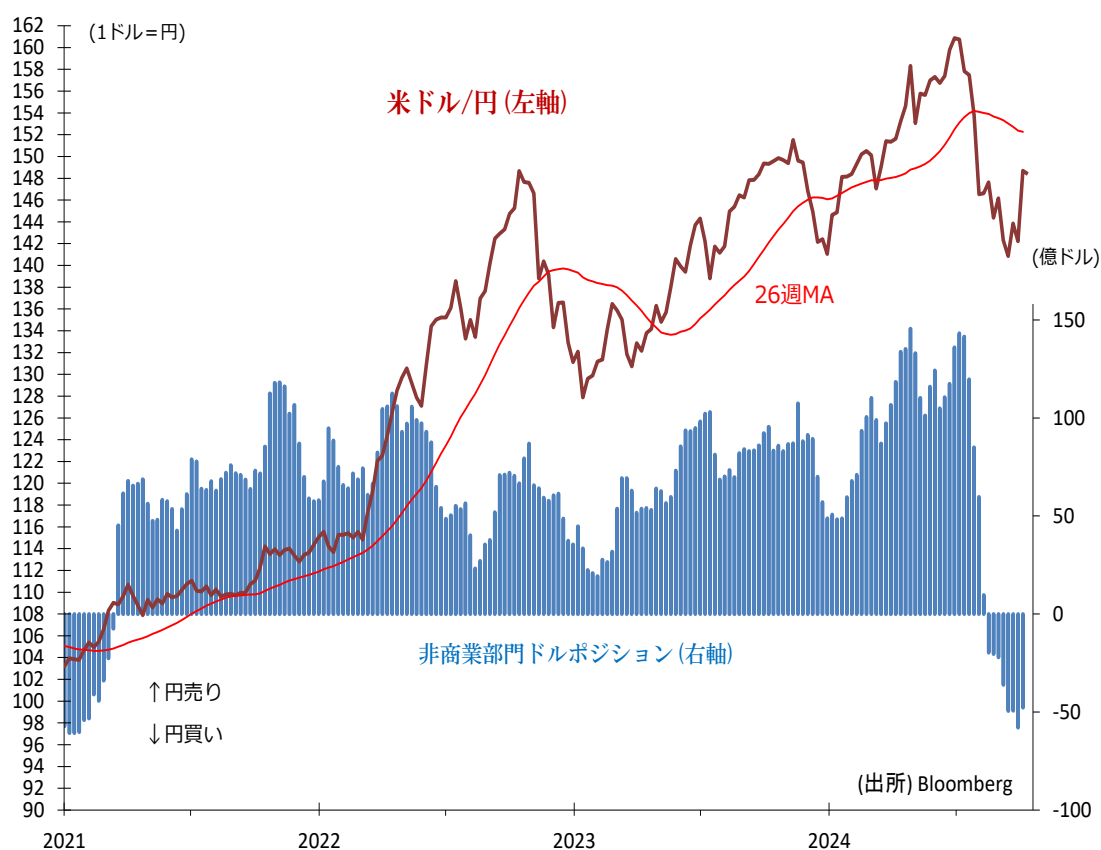
もっとも、円の売り戻しが一巡しb波が終わると、c波のドル安・円高が始まります。c波は 139.565 円を下抜き、さらに[137.197 円]を試すことでしょう。

円買いポジションは7週ぶりに縮小

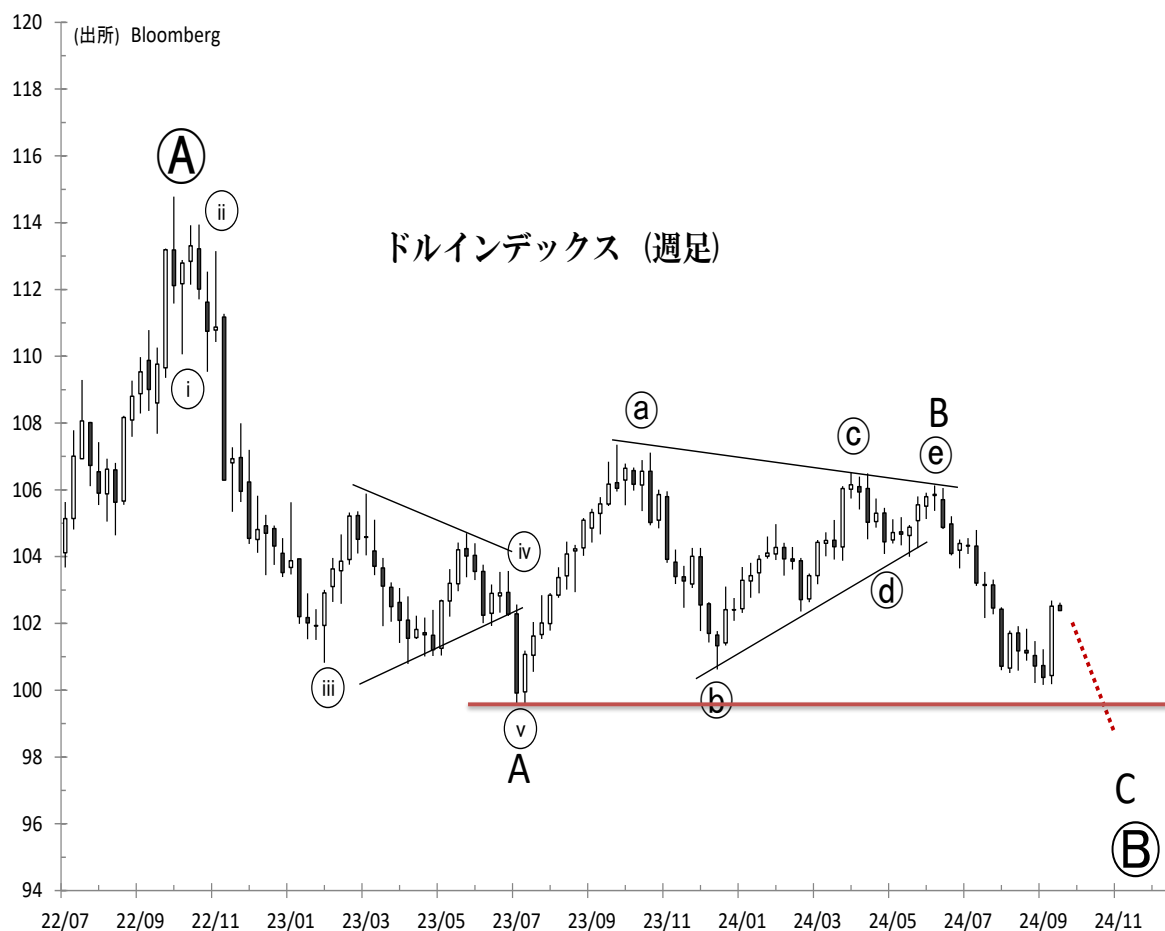
IMM 通貨先物市場での非商業部門(投机筋&ヘッジファンド)によるドル買い持ちポジションは、10月1日時点で5.67万枚(49.2億ドル)と7週ぶりに縮小しました。1週間で9239枚、10.3億ドルの縮小です。

筆者の観測では、投机筋は26週MAをドル/円の強弱判定の目安としています。

ドル/円の当面の上値は26週MA(152.058円)水準まででしょう。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックス(ドル指数)はⒺ波による下落局面にあります。

23 年 7 月安値(99.578)を起点とする B 波は、1 年間かけて[トライアングル]を完成し、現在は C 波によるドル安が進行中です。9 月 27 日には一時 100.157 と、1 年 2 カ月ぶりドル安を更新しました。

足元の反発は間もなく終わり、おそらく今月中にも 23 年安値(99.578)を試し、それを下抜く可能性があります。

99.578 を下回ってからのドル指数ターゲットは[92.148](N 計算値)です。

Ⓔ波は最終的に、[90.930]、[89.209]を試す可能性があります。前者は A 波と C 波が等しく下がる水準、後者は 21 年 1 月に付けた、Ⓐ波のレッサー・ディグリー(4)波安値です。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
